

絵本で“平和を願うヒロシマの心”を 世界に届けたい

市民グループ『ひろしまと世界を結ぶこども文庫』の活動から
代表 柴田幸子（広島ユネスコ協会理事）

“平和を願うヒロシマの心”を世界に届けたいという思いを込めて、”ヒロシマの絵本“を届け始めていつのまにか、20年が過ぎました。

この活動を始めたきっかけは、1995年、北京で開催された「第4回世界女性会議」と並行して開かれた「NGOフォーラム」に広島市から派遣され、参加したことでした。

「核兵器の廃絶と平和の創造」をテーマに、2回のワークショップを行いました。その時参加していたアメリカの女子高校生（高校生が参加しているというのも、驚きでした）が、私たちが資料として持参した、被爆直後の惨状の写真やポスター、そして数々の“ヒロシマの絵本”を見て「広島の原因のことは、知っていたが、こんなに酷い恐ろしいものだとは知らなかった」と、言ったのです。

その「ことば」から私たちは、まだまだ世界の多くの人たちが、「原爆」のほんとうの恐ろしさを知らない！ということに、気が付きました。そして又、被爆の実相を「ことば」だけで伝えることの難しさも実感しました。そんな北京会議の最中に、中国と、フランスが核実験を行ったというニュースが、伝えられたのです。広島での原爆投下後、50年が過ぎ世界中で「核廃絶」の声が高まる中でのことでした。

帰国後、私たちに出来ることは何か？と話し合いを重ねた結果、北京会議での体験を踏まえて、絵本が民族・宗教・文化・言葉の壁を越えて“ヒロシマ”を伝えてくれるのではと、考えたのです。

資料に絵本を加えたのは、たまたま長男が小学校に入学したとき、PTAの先輩のお母さんから、全国でも珍しい独立した「こども図書館」が広島にはあり、「広島市よい本をすすめる母の会」のお母さん達が親子で本を楽しみながら、読みきかせや、読書会などの活動をしていることを聞きました。

PTAの文化部が「移動図書館ともはと号」の担当だったことから、私もお手伝いに参加、本の好きなお母さん達に呼びかけ、我が家で地域文庫「旭読書会」を始めました。「こども図書館」にグループ登録をし、1カ月間30冊の団体貸し出しをうけ、グループみんなで楽しむのです。これが、「こども図書館」と「広島市よい本をすすめる母の会」との出会いで、今年55周年を迎え今、記念誌発行の準備をすすめています。

たまたま先日、「あおい文庫」時代の書類の中から、30年前に文庫を始めた当初、日本ユネスコ協会から選び抜かれた100冊の児童図書の寄贈を受けたリストが、出

てきたのです。「あおい文庫」は今も続いていて、その本が地域の子どもたちに読み継がれてきたのを、とても嬉しく思うとともに、人間だけが作り得た本というものの素晴らしさを改めて感じたことでした。

ヒロシマを伝えるために最初に贈ったのは、留学生の出身校や広島市の小学校と交流をしている、中国の小学校でした。多くの人々に助けられ支えられて、草の根からはじめたことでしたが、今振り返ってみると、随分といろいろなことがあり、また思いもかけない方々との出会いもありました。

去年は、G8の外相会議が広島で又、伊勢-志摩サミットには世界の首脳が参加されました。国際社会で活躍される方たちにこそ、核廃絶のリーダーシップを発揮してもらいたいと、これらの会議に参加された核保有国5か国含む15カ国の首脳に、『絵で読む広島原爆』（福音館：那須正幹・西村繁男 作）を、駐日大使館を通じて贈りました。ドイツ・メルケル首相、フランス・マクロン大統領からは、側近の秘書官や首席補佐官名で、直接私どもへ丁寧なお礼状が届きました。お二人のお人柄を感じました。

この20年間に“ヒロシマの絵本”を2,580冊、1,420カ所、160カ国に贈りました。

先日の国際会議で、“核兵器廃絶”が賛成国多数で可決されたにもかかわらず、唯一の被爆国である日本政府が、国民の声を無視して賛成しなかったことは、世界に対して恥ずかしくとても残念です。

中国新聞 8月21日付け

原爆絵本に 各国から反響

原爆被害を伝える英訳絵本を海外に贈っている広島市の市民グループ「ひろしまと世界を結ぶとも文庫」に対し、フランスのマクロン大統領の側近から礼状が届いた。この年ほど、送付先からの反応が増えているという。

贈るのはヒロシマ後の惨状を詳細に描いた「絵で読む広島原爆」(文・那須正幹、絵・西村繁男、福音館書店)の英訳版。海外の学校などのほか核兵器保有国の要人にも届けている。今年5月にマクロン氏が大統領に就任し、在日フランス大使館(東京)気付けで郵送すると、パリの大統領首席補佐官から「大統領はあなたの思いを詳細に感じ取った」と書状が届いた。代表の柴田幸子さん(85)は「文庫には、核兵器を簡単に放棄するとは思

「独メルケル氏」
贈るものはヒロシマ後の惨状を詳細に描いた「絵で読む広島原爆」(文・那須正幹、絵・西村繁男、福音館書店)の英訳版。海外の学校などのほか核兵器保有国の要人にも届けている。今年5月にマクロン氏が大統領に就任し、在日フランス大使館(東京)気付けで郵送すると、パリの大統領首席補佐官から「大統領はあなたの思いを詳細に感じ取った」と書状が届いた。代表の柴田幸子さん(85)は「文庫には、核兵器を簡単に放棄するとは思

「米ケネディ氏」
贈るものはヒロシマ後の惨状を詳細に描いた「絵で読む広島原爆」(文・那須正幹、絵・西村繁男、福音館書店)の英訳版。海外の学校などのほか核兵器保有国の要人にも届けている。今年5月にマクロン氏が大統領に就任し、在日フランス大使館(東京)気付けで郵送すると、パリの大統領首席補佐官から「大統領はあなたの思いを詳細に感じ取った」と書状が届いた。代表の柴田幸子さん(85)は「文庫には、核兵器を簡単に放棄するとは思

「仏マクロン氏」
贈るものはヒロシマ後の惨状を詳細に描いた「絵で読む広島原爆」(文・那須正幹、絵・西村繁男、福音館書店)の英訳版。海外の学校などのほか核兵器保有国の要人にも届けている。今年5月にマクロン氏が大統領に就任し、在日フランス大使館(東京)気付けで郵送すると、パリの大統領首席補佐官から「大統領はあなたの思いを詳細に感じ取った」と書状が届いた。代表の柴田幸子さん(85)は「文庫には、核兵器を簡単に放棄するとは思

贈呈グループに礼状次々 広島

この数年1年ほどの間に各国から届いた礼状を手にする柴田さん

「メルケル首相の秘書官の書状を受け取った。だが手紙を感ずる機会は決して多くない。オバマ前大統領とミシェル夫人や就任前のトランプ大統領からは返事がなく、トランプ氏に宛てた本は理由は不明だが、大使館から「受け取り拒絶」された。本人たちに実際に絵本を手にしたかは確かめようがないが、絵本は言葉の遣いを越え理解を可能にする。地道にやり続けたい」と柴田さんは話す。(斎藤由美)

ヒロシマ平和メディアセンター <http://www.hiroshimapeacemedia.jp/>